

せいかつ百科

10月は「3R推進月間」です

10月は「3R推進月間」として全国で3R運動に取り組む重点月間です。ごみを減らす(Reduce)、繰り返し使う(Reuse)、再生利用(Recycle)を実践してごみを減らしましょう。

●身近なところからできる3R運動●

- ・買物にはエコバッグを持参して、レジ袋はもらわない
- ・詰替商品を購入して、容器は繰り返し使用する
- ・食材は、必要な量だけ購入する
- ・過剰包装は辞退して、簡易包装にしてもらう
- ・スプーンや割箸などはもらわないようにする
- ・修理して長く使える製品を選んで購入する
- ・料理は食べきれる分量で調理するよう心がける
- ・生ごみは水きりを徹底する
- ・生ごみ処理機を活用する

※生ごみ処理機の購入補助制度があります。コンポストや電気式の生ごみ処理機の購入にご利用ください

■問い合わせ＝本庁生活環境課生活衛生係(内線215)、各総合支所市民環境課

「都市鉱山からつくる! みんなのメダルプロジェクト」に参加しています

2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピック競技大会の金・銀・銅の入賞メダルに、不要になった小型家電に含まれるリサイクル材が活用されます。



東京2020組織委員会が主催するこの取り組みに、全国の自治体が小型家電の回収で協力することになり、本市も平成29年4月からプロジェクトに参加しています。市内では、市役所本庁1階、各総合支所および全ての地区センター、合わせて35カ所に小型家電回収ボックスを設置し回収しています。

○回収対象品目は
「タテ15cm×ヨコ25cm」に入る小型家電です
携帯電話、電話機、FAX、ポータブルラジオ、デジタルカメラ、ビデオカメラ、ICレコーダー、携帯型音楽プレーヤー、携帯型DVDプレーヤー、電子辞書、電卓、電子血圧計、家庭用ゲーム機本体、カー用品(カーナビ、ETC車載ユニットなど)、リモコン、ACアダプタ など

○回収対象品目は

「タテ15cm×ヨコ25cm」に入る小型家電です
携帯電話、電話機、FAX、ポータブルラジオ、デジタルカメラ、ビデオカメラ、ICレコーダー、携帯型音楽プレーヤー、携帯型DVDプレーヤー、電子辞書、電卓、電子血圧計、家庭用ゲーム機本体、カー用品(カーナビ、ETC車載ユニットなど)、リモコン、ACアダプタ など

We support the **ILC** 希望のひかり 第59回

ILC(国際リニアコライダー)計画の各種最新情報をお届けします

ILCの誘致を目指す東北 ILC準備室(室長・鈴木厚人 県立大学長)は、9月24日、一関保健センターで住民向けの解説セミナーを開催しました。実験で生じる放射性物質の処理など参加者の疑問に対し、専門家が技術的な対策を説明しました。

佐々木 淳(同準備室地域部門長(県理事))は、ILCの最新動向などを説明。「ILC運用期間後のILCトンネルが、核廃棄物の最終処分場になるのではないかと」という疑問に対し、「①法律により、高レベル放射線廃棄物の最終処分は地下300mより深い地層に埋設処分する必

要があり、ILCトンネルは適さない、②法律により、候補地選定には事前に地元自治体の意見を聞く必要がある、国は、地元自治体が反対の場合には手続きを進めないとしている、③ILCは世界の国々が協力し、費用を負担して建設・運用する国際プロジェクト。日本が独自にその利用方法を決めることはできない」とその可能性を明確に否定しました。

また、地元負担の可能性については、「ILC加速器本体の建設費約5500億円、測定器関係約1000億円、運転経費約400億円は、国際プロジェクトで負担する。それ以外は未定だが、取り付け道路や上下水道などの周辺整備は、地元負担も発生する



※ILC解説セミナーで配布された資料(Q&A集)はこちらのQRコードからダウンロードできます

と考えられる。準備期間4年とその後の建設期間で、国への支援要請を含め、苦しい財政状況で研究所を地域の振興にどう生かしていくか、知恵を出し合い、実行していく」と述べました。

成田晋也同準備室広報部門長(岩手大学教授)は、実験で使い終わった電子や陽電子のビームを吸収する「ビームダンプ」について、「ビームダンプが、ILCの中で最も放射化が強い場所。この水の中には放射性物質が生成されるが、この水は地下のビームダンプ室内の配管中に閉じ込められ、放射線が漏れないように厳重に管理される。また、万が一、ビームダンプ室内の放射性物質が漏れ出した場合に備え、多重構造の設計となっている」と解説しました。

ILCサポーターズ6万人署名運動展開中!

日本政府による国内誘致の意志表示期限が本年12月に迫るなか、政府の誘致判断を後押しするための「市民総参加の誘致運動」として、7月からスタートした「ILCサポーターズ6万人署名運動」。地区振興会や市内事業者の皆さんのご協力により、市で取りまとめた署名数は、9月末で3万人を超えました。6万人署名を目指して、引き続き募集しています!

羽田地区振興会は、「羽田地区第2次コミュニティ計画」に基づき、地区内全域をあげて署名運動を展開。8月上旬に地域内の班長らの協力を得て、全世界に署名用紙を配付して取りまとめました。菊池誠会長は、「羽田地区内全域をあげての取り組みを呼びかけたところ、多くの羽田地区民の熱意を結集することができた。ぜひ、この地に宇宙誕生の瞬間を再現する、人類史上最大の基礎科学プロジェクトの実現を熱望する」と述べ、小沢昌記市長に署名を手渡しました。



9月20日、取りまとめた署名687人分を小沢市長に提出

対象 ILCの実現を応援する人(年齢、居住地などの制限はありません)
参加方法 署名用紙に氏名を記載のうえ、ILC推進室、各総合支所総務企画課または各地区センターに送付(メール・FAX・郵送・持参)
その他 ILCサポーターズ署名は無料です。サポーターズ宣言用紙は、ILCウェブサイトにも掲載していますが、ご連絡いただければ、郵送いたします。この署名は、東北ILC推進協議会を通じて、政府に届ける予定です。

ILCサポーターズ公式サイトQRコード →

日増しに秋の深まりを感じる季節となりましたが、いかがお過ごしですか。

先月、北海道胆振地方を震源とする地震が発生し、姉妹都市の厚真町と長沼町では激しい揺れに見舞われました。特に厚真町では、大規模な土砂崩れなどにより多くの人命が失われました。心からご冥福をお祈りいたします。また、一日も早い復旧、復興を願います。市では募金箱を本庁と各総合支所へ設置して善意を募るほか、見舞金の送付や職員派遣を行い、復旧、復興を後押ししてまいります。

先月、市総合防災訓練が市内各所で行われ、大雨や地震発生を想定した訓練を実施しました。市民一人一人の防災意識を高め、身近に起こる自然災害に備えてまいります。平成29年度の決算報告です。

半世紀にわたり衣川の発展を見守ってきた旧衣川総合支所庁舎をしのび「感謝とお別れの会」が開催されました。旧庁舎は東日本大震災で大きな被害を受け、本年度中に解体されます。旧庁舎に感謝し、新庁舎へ衣川の素晴らしさを引き継いでまいります。

市では、米大リーグで活躍する大谷翔平選手を応援しようとして、清水寺森貫主が揮毫した文字をデザインした横断幕とポスターを、各庁舎や駅構内に設置しました。貸し出し用横断幕もありますので、生涯学習スポーツ課へ申し込みください。大谷選手への応援の輪を広げてまいります。

奥州市長 小沢昌記